



校長室 だより

平成29年 6月 5日
尼崎市立常陽中学校

校長 小谷 豪郎 No.5



上の写真は、昭和59年2月に枯山水の庭として完成された石庭です。当時は、常陽中学校が開校されて3年目を迎え初めて3学年がそろうという記念の年でした。

また、この石庭のデザインには「校歌」が表現されていること、地域の歴史や文化、自然について見る人に語りかけるそんな思いが込められているのです。

「武庫の山並、真向かいに」「六樋の水のさざめくところ」「古代の楽湧く、武庫川よ」「豊穡の知恵うけついで」・・・といった校歌の中に、優れた自然とその環境に働きかけて生きてきた、武庫の人々の努力を更に活かし、未来に向けて正しく伸びていこう、と詩人の伊丹公子先生が作詞してくれました。



六甲山系をイメージした緑の木々を背景に武庫川の源流を表現しています。

一番上流に当たるところには大きな花崗岩によって一つは高さ、一つは巾、そしてもう一つは傾斜を表現し武庫川の雄大さ・水の豊かさを表しています。



上流の荒々しさを角張った石で表現し、中流からの優しい流れは丸型の石で表現されています。中程には、「ひげの渡しの石灯籠」と「渡し船」が配置され歴史を伝えています



下流には豊かな水の源の六樋とそれによって潤され田園での稔り、収穫の喜びを「タマリユウ」で表しています。

校歌は、先に述べました詩人の伊丹公子先生の作詞、そして当時の音楽の西尾先生が、常陽中学校の生徒一人一人の成長を願ってリズムで表現し作曲してくださいました。

この石庭はそんな校歌の世界を表現しています。これを見て感じ取ってその表現から個々の感性を養い自身の表現力を高める情操教育の一環です。何かに気づくことから始まります。

何も気づかずに流されて生きていくのではなく、自分で自分の心を見つめる、相手に気持ちよく正確に思いが伝えられるような表現力、石や草木を「見る」そこから「観る」へと成長させ自分自身の豊かな感性を高めていってください。

卒業生やその保護者の皆様方には、完成当時と印象が違うとおしかりをいただくかもしれませんが、予算もなく業者ではなく手作りでの修復ですのでお許しください。

1年生宿泊学習無事終了

5月25・26日で八子高原へ行ってきました。あいにくの小雨模様の中の出発となりましたが、出だしてたくさんの遅刻者があり、出発式が校長先生の説教で始まり前途多難な出だしと成りました



現地到着後、天候も回復し、予定通りオリエンテーリングで山頂まで行くことができましたやはり山頂の空気は最高です。仲間と頑張った達成感がまた君達を成長させてくれます。

夜は大広間で勉強合宿です。小学校の復習をきちんとこなし中学校でつまづかないよう自学自習の習慣を身につけて3年間を見据え将来の進路へとつなげていってほしいです。



二日目は魚つかみから飯盒炊きさんです、命をいただくことの大切さを学び、皆で協力して作ったご飯はとてもおいしかったです。これぞ同じ釜の飯を食った仲間、3年間一緒に頑張ろう

【今月の言葉】

「信は力なり」

一人の力は小さいけれど、仲間を信じることによりその力は何倍にも大きくなっていく

さらに、自分自身を信じ振り返らずに勇気を持って全力で取り組むことが、成功に結びつく秘訣である